※令和３年度以前入学生用

学校番号	３１３

令和５年度　理科

教科	理科	科目	化学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂　新編「化学」　（東京書籍）						
副教材等	ニューサポート　改訂新編　化学　（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

化学は目で見ることができない現象（分子・原子・イオン・反応等）を理解させることが難しい。そのため、実験や映像を通して様々な化学反応や現象を学習させたい。
化学を受験に使う生徒がいないため、日常生活に関わる事象を中心に少しでも興味・関心を引き出せるような学習内容を選びたい。

２　学習の到達目標

〇化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
〇化学的な事物・現象を観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
〇日常生活や社会の化学的な事物･現象に主体的に関わり,科学的に探究しようとする態度を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連，歴史に関心や探究心をもち，意欲的にそれらに取り組む。	観察，実験あるいは事実の分析を通じて，論理的に考察して問題を解決し，得られた結果を表現することができる。	観察，実験の技能を習得するとともに，それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	化学とその役割に関して具体的物質や社会との関連についての概念や原理･法則を理解し､それらを新しい事象の解釈に応用することができる。
評価方法	・学習状況の観察 ・ノートやワークシートの記述 ・観察や実験による記録、発表	・学習状況の観察 ・ノートやワークシートの記述 ・観察や実験による記録、発表 ・定期考査	・学習状況の観察 ・観察や実験による記録、発表 ・定期考査	･定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用	○ ○	○ ○	 ○ ○	○ ○	a：酸化還元反応について関心をもち，酸化剤・還元剤のはたらきや電池の原理について意欲的に探究しようとする。 b：酸化還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を基に，事物・現象の中の共通性について考察できる。 c：電池を酸化還元反応の原理から説明し，観察・実験の過程や結果を考察し，的確に表現できる。 d：酸化還元反応の定義を理解し，電子の授受や酸化数の変化による説明や具体的な酸化剤・還元剤の反応に関する基本的な知識を身につけている。	学習状況 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
2学期		有機化合物の特徴と分類	○			○	a:有機化合物に関する基礎知識を得た上で、事象や現象に関心や探究心を意欲的にもつ。 b:有機化合物に関する実験や観察を行い、得られる結果から考察し、的確に性質や構造を判断できる。 c:観察や実験の技能を習得し、有機化合物に関する知識を身につけ、得られる結果から導き出した自分の考えを表現できる。 d:有機化合物に関する性質や現象について理解し、基本的な知識を身につけている。	学習状況 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
		脂肪族化合物		○	○	○		
3学期		芳香族化合物		○		○		学習状況 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。